

血液（血漿・血清）の粘性率測定法

名誉教授 大野宏毅、医科物理学 門野敏彦 他

利用分野

骨髄腫や原発性マクログロブリン血症のような異常たんぱく質が血清中に増加する疾患など、血液粘性率の異常を示す疾患の病態診断等に血液および血漿の粘性率測定が行われる。本発明は、わずかの量（100 μ L以下）の試料を用いて血漿等の粘性率を測定する方法を提供する。

シーズ

電解質溶液の電気伝導を測定して、その粘性率を迅速に求める方法を開発した。原試料と、それを純水で所定の倍率に希釈した希釈試料の電気伝導率を決定するだけで当該試料の粘性率を算出することができる。さらに、従来の粘性率測定法のように試料に接する可動部分を必要としないので検査装置が小型になる。検査に必要な試料の微量化が可能である。



ニーズ

血液の粘性率増加をきたす疾患や、逆に血液の粘性率低下をきたす疾患が多く知られている。従来の粘性率測定法は多量の試料が必要であったり、操作が煩雑であったりするため、血液の粘性を検査室で簡便に測定することができない。本発明による方法は、検査装置は簡素で、検査に必要な試料も微量でよい。標準的な検査装置として普及する市場ニーズがある。

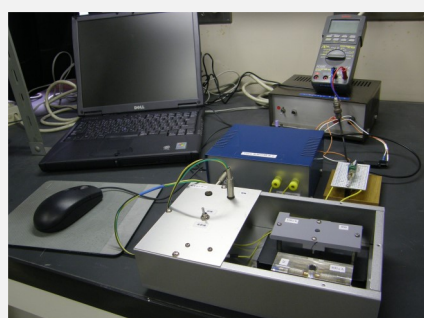
連携分野

九州工業大学との共同研究により、微小セル（測定容器）と、それに内蔵された微小電極を試作した。また、微量サンプルの正確な希釈が測定精度を左右する。医療検査技術に経験あるいは興味のある企業との共同研究開発を希望する。



知財保護

特許第6258708号



少量の血液があれば、ヘマトクリット値や粘性率が短時間で測定できるんだ



本学マスコットキャラクター
ラマティー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp